



# 中山間地域における多様な事業を導入した地域振興

はちぶせ

なかつがわし

八布施活動組織（岐阜県中津川市）

- 当地区は、岐阜県東部に位置し、周囲は標高700～1,200mの山地が広がる自然豊かな地域である。
- 農業者の高齢化や減少により、地域営農の維持が危ぶまれる中、農事組合法人「はちたか」を設立し、草刈りなどの農地維持活動について、集落全員参加型の共同活動を実施している。その結果、集落行事にもほぼ全員が参加するなど、地域の絆が保たれている。
- イノシシやシカなどの鳥獣被害が増加しており、地域ぐるみで電気柵等の設置と日常管理を実施するとともに狩猟免許を取得し、イノシシを捕獲する取組も行っている。

## 【地区概要】

- ・取組面積 28ha（田28ha）
- ・資源量 開水路20.0km、農道6.0km
- ・主な構成員  
農業者、農事組合法人、自治会、女性会、子供会等
- ・交付金 約2.3百万円（H29）

（ 農地維持支払  
資源向上支払（共同、長寿命化） ）

## 活動開始前の状況や課題

- 当地区は、中山間地域に位置しており、過去においては、水田に引く水をめぐって水喧嘩が絶えなかった。
- 農業者の高齢化や人口減少に伴い、集落の全戸が参加する農事組合法人「はちたか」を設置。
- 水田や用水路などの地域資源の保全はもちろん、老朽水路のパイプライン化や基盤整備未実施ほ場の整備が課題。
- 獣害被害も増加しており、既設の電気柵の日常管理に苦慮。



（農）はちたか設立



電気柵設置と保守

## 取組内容

- 地域農業を維持するため、様々な事業に取り組む。
  - ・多面的機能支払交付金  
草刈り等の農地維持活動や施設補修
  - ・中山間地域等直接支払交付金  
湿田圃場の改良工事。障害木や竹の除伐
  - ・県営経営体育成基盤整備事業  
用水路のパイプライン化や基盤整備
  - ・水田法面畦畔管理安全省力化推進事業  
傾斜地対応型自走式法面草刈機の導入
- 地域ぐるみで電気柵の設置と日常管理を行うとともに、狩猟免許取得者（4名）によるイノシシの捕獲を実施。シカ対策として、高さ1.8mのワイヤメッシュの設置も実施。
- 子供会の活動として、生きもの調査を実施し、地域の自然を学習する場を提供。



ワイヤメッシュ設置



生きもの調査

## 取組の効果

- 地域の共同活動が浸透したことにより、農地の利用集積が進行。（農事組合法人に約8割を集約）
- 野菜（ブロッコリー）栽培による女性の農業への参画を推進。
- 鳥獣害対策の研修や講習など積極的に参加することで被害を少しでも減らそうと努力した結果、以前より減少。
- 捕獲したイノシシを業者に解体してもらい集落行事の際、焼肉や鍋にして楽しむことで、地域コミュニティが活性化。
- 大学生との交流を開始。（H29年度は明治大学（4名）が来訪し、草刈り等を実施）



ブロッコリーの手入れ



集落行事の風景



# 水田魚道の設置を通じた活動の展開

えのきまえ あんじょうし  
榎前環境保全会（愛知県安城市）

- 本組織は、平成19年度から農地・水保管理支払に取り組んでおり、近年の環境配慮に係る意識の高まりなどを受けて、愛知県農業総合試験場等との連携のもと、地区内の水田に水田魚道及びカエルの脱出装置を設置。
- 水田魚道と魚道を設置した観察水田において、生物の観察や伝統的農機具を用いた農作業体験など、子どもが農業や環境の大切さを再認識し、地域や農業への理解を深める活動を実施。
- また、地元の保育園・子供会等との連携のもと地域資源の保全活動を実施しており、景観保全のために植栽したヒマワリを活用したイベント等を開催。更に、地元農協は、水田魚道を設置した水田で栽培した減農薬米を「どじょうの育み米」として販売。

## 【地区概要】

- ・取組面積 69ha（田65ha、畑4ha）
- ・資源量  
開水路 13.0km、パイプライン14.6km、  
農道 8.5km
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、町内会、  
榎前農用地利用改善組合 等
- ・交付金 約5百万円（H29）  
農地維持支払  
資源向上支払（共同、長寿命化）

## 研究機関との連携による 水田魚道等の設置



- 水田の生物多様性を確保するため、構成員、耕作者等の関係者が話し合い、水田と排水路を結ぶ水田魚道を設置
- 水田魚道は、愛知県農業総合試験場において開発されたものであり、保全会では、遡上する魚類等の観察・調査を週2回程度の頻度で定期的実施
- 生態系の保全に欠かすことの出来ないカエルを保護するため、カエルの脱出装置を水路に設置

## 水田魚道を活かした活動



- 水田魚道での生き物調査を実施する事で環境に対する意識を醸成



- 魚道を設置した水田を観察水田としても活用

- 観察水田で伝統的農機具を用いた農業体験を実施



## 更なる活動の展開



- 水田魚道を設置した水田で節減対象農薬を地域慣行の5割低減して栽培した米を「どじょうの育み米」として販売

- また、地元製パン工場とも連携し、米粉パンとしても販売



- 多様な主体による取組  
(中学生によるゴミ拾い)



- ヒマワリの植栽  
(活動組織が主体となってヒマワリ祭りも開催)





# 小水力発電施設の適正管理の推進

中間農業地域

たきちょうせいわ

多気町勢和地域資源保全・活用協議会（三重県多気町）

たきちょう

- 本地域は、以前から、地区外の大学、企業が地域資源の保全活動等に支援・協力。また、研究者と連携して、本地域をフィールドとして地域資源の保全活動の調査・検証を実施。
- これらの繋がりから、地域住民、大学、企業、行政等が協力して小水力発電施設を設置し、本交付金で発電施設の除塵や点検等の維持管理を行っている。得られた電力は、米粉等の6次産業施設や、活動における施設等の点検作業に使用する電気自動車の電源として利用。
- これらにより、H26年度は、2,800kWhの電力を発電。地区の子ども538人に対し、環境学習の機会を提供。また、自然エネルギーを活用したさらなる活動の展開を模索している。

## 【地区概要】

- ・取組面積 700ha(田480ha、畑220ha)
- ・資源量 開水路86.6km、農道87.5km、ため池8箇所
- ・主な構成員  
農業者、営農組合、自治会、改良区、学校・PTA、図書館 等
- ・交付金 約21百万円(H29)

〔 農地維持支払  
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

## 活動開始前の状況や課題

- 地区外の大学、企業が地域資源の保全活動等の支援・協力団体として参加。研究者と連携して、地域資源の保全活動の調査・検証を実施。
- 農業用水を利用した小水力発電の実証研究にも取り組み、自然エネルギーを活用した多様な活動の可能性の検討を開始。



小水力発電の候補地調査（51cm落差）

## 取組内容

- 農業用水路をの落差工を活用して、小水力発電施設を設置。本交付金で発電施設の除塵や点検等の維持管理を実施。
- 電力は米粉等の6次産業施設、農業用水の管理施設や獣害対策の施設の点検等に使用する電気自動車、外灯に活用。
- また、地域の小学生を対象とした環境学習にも小水力発電施設を活用。



子ども達による小水力発電のビデオレポート

## 取組の効果

### 【小水力発電の設置】（平成26年度）

- ・小水力発電の規模:400W
- ・発電量:2,800kWh/年

### 【環境学習の実施】（平成26年度）

- ・開催回数:年3回
- ・参加児童数:538人

- 子どもを対象に、CO<sub>2</sub>発生抑制などの環境学習も実施。学習に参加した子ども538人の環境への関心を啓発。

- 今後、自然エネルギーを活用したさらなる活動の展開を模索。





# 環境保全活動を通じて地域企業と交流

ひがしざかい かりやし  
東境地域資源保全隊（愛知県刈谷市）

- 本地域は、大型郊外店の進出等急速に都市化が発展しており、非農家の割合が9割を超える都市近郊の農業地域。県営経営体育成基盤整備事業（平成16～21年度）を契機に維持管理体制の再構築を含めた組織づくりを図り、集落営農を核とした地域農業の継続的な発展を地域一体となって目指している。
- 平成29年8月に地域企業トヨタ車体㈱が主催し、外来種駆除活動や対策を行う人材の育成と、水辺の生き物に関する環境学習を目的としたミシシippアカミガメ駆除を開催。愛知県生態系ネットワーク協議会、小中学生、地域住民、研究者、環境省、刈谷市、当保全隊の産・官・学・民が一体となり実施。
- 地域企業デンソーと共催で清掃活動を実施。（デンソーハートフルデー、DECOウォーク刈谷）
- 平成19年度からクリーン大作戦を展開し、地域の約30の各ボランティア団体、企業、小中学校が参加。地域に根付いた活動となり、年々参加者は増加。ポイ捨てが目に見えて減っている。

## 【地区概要】

- ・取組面積 63 ha（田 63 ha）
- ・資源量  
開水路 13.0 km、パイプライン 13.3 km  
農道 11.2 km、ため池 6カ所
- ・主な構成員  
農業者、自治会、同志会、  
土地改良東境管理区
- ・交付金 約4百万円（H29）  
〔 農地維持支払  
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

## 土地改良管理区が中心と なって維持管理体制の構築



年間活動計画作成



水路の泥上げ



ため池周辺の草刈り

## 産・官・学・民が一体となった 環境保全活動の取組

### アカミガメの駆除 （生態系保全・水辺環境学習）



事前打合の状況



罠の設置状況



カメの捕獲状況



捕獲されたアカミガメ

### 捕獲したカメ

アカミガメ 54頭  
ニホンイシガメ 1頭  
ニホンスッポン 1頭

## クリーン大作戦に 約30団体660名が参加



中学生分別作業



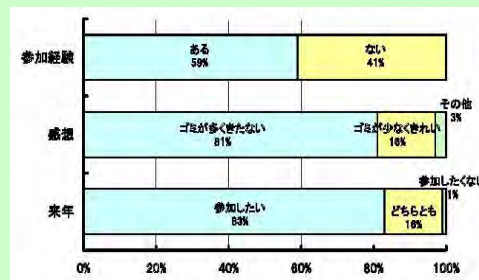
クリーン作業状況



アンケート調査



団体参加状況



アンケートでは、約6割の方が参加経験あり、約8割の方が次回も参加したいと回答。





# 世代を越えたため池、農業用水を守る取組

にごりいけ おわりあさひし  
濁池地域環境保全の会（愛知県尾張旭市）

- 当会の位置する尾張旭市は、名古屋市に隣接する住宅都市で、農家数は総世帯数の1%程度。江戸時代から伝わる農業用ため池の「濁池」や用水路の江ざらいは4つの農業者組合で行い、農地周辺の草刈り等は地元自治会やボランティアグループが実施してきた。濁池を次世代に伝えていきたいとの地域住民の思いが一致し、農業者と非農業者が連携して活動組織を設立。
- 児童を対象に、濁池を農業用ため池としての歴史や役割を学ぶ教材とした出前講座のほか、濁池受益地の水田での田植えや稲刈り等の農業体験を実施するなど、子供たちに農業用水の大切さを伝えている。
- さらに多くの学校や地域住民との連携を深めるため、公民館や市民祭でのパネル展示等の広報活動に積極的に取り組んでいる。

## 【地区概要】

- ・取組面積 12ha(田8ha、畑4ha)
- ・資源量  
開水路6.0km パイプライン1.2km、  
ため池1箇所
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、農業者組合、  
自治会、JA、市民ボランティア団体、  
土地改良区
- ・交付金 約1百万円(H29)  
  - 農地維持支払
  - 資源向上支払(共同、長寿命化)

## 「濁池」や農業用水を中心とした活動

### 濁池の保全活動

- ・「濁池を次世代に伝えていきたい」という地域住民の思いが一致し、農業者と非農業者が連携し草刈等の保全活動を実施している。

### 小学校への出前講座

- ・自治会等がスクールボランティアとして様々な学校行事に関わっていたこと、平成18年に愛知県が実施した「学童によるため池調査」で、児童から濁池に対して「水をきれいにしてほしい」、「ゴミをなくしてほしい」などの意見が寄せられていたことから、濁池を農業用ため池としての歴史や役割を学ぶ教材とし、児童を対象に出前講座を開催。
- ・木曽川上流にある牧尾ダムから木曽川を經由して濁池に通水されるまでの愛知用水の役割や水の大切さについて講義。



濁池の草刈作業



小学4年生を対象に行った出前講座

## 小学生の農業体験



春の田植え体験の様子



秋の稲刈り体験の様子



## 子供たちや地域住民に活動等を紹介

- ・地区公民館や市民祭等でパネル展示を行うなど積極的に広報活動に取り組んでおり、さらに多くの学校や地元の人々と連携をしていきたいと考えている。

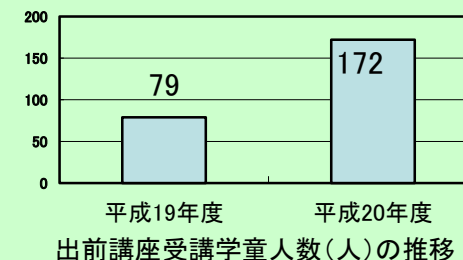


地元の公民館祭に出展



農業祭に出展

- ・出前講座については、平成19年度に小学4年生を対象に実施。20年度は校長が活動組織に出前講座の開催を呼びかけて、4年生と5年生を対象に実施。5年生は2年目の受講であり、水源涵養などより高度な内容の授業を受けた。





# 学校教育と連携した遊休農地対策

中間農業地域

たきちょうせいわ

たきちょう

多気町勢和地域資源保全・活用協議会（三重県多気町）

- 本地域では、従来から地域が連携して実施していた子どもの農業・農村の体験学習が継続的な取組となるよう、地元小学校と連携し、オリジナルコミュニティ・スクールとして実施。
- 本制度により、遊休農地を解消し、体験学習の場として整備。地域で話し合い、学習プログラムを作成し、郷土史学習や食農体験学習を実施。
- 子どもと地域社会とのつながりが深まるとともに、地域の多様な人々の活躍の場も創出。遊休農地の発生を抑制するとともに、獣害等の発生も防止。

## 【地区概要】

- ・取組面積 700ha（田480ha、畑220ha）
- ・資源量 開水路86.6km、農道87.5km、ため池8箇所
- ・主な構成員  
農業者、営農組合、自治会、改良区、  
学校・PTA、図書館 等
- ・交付金 約21百万円（H29）  
（農地維持支払  
資源向上支払（共同、長寿命化））

## 活動開始前の状況や課題

- 本組織は、旧勢和村の全10集落がまとまって、平成19年度に設立。
- 従来から地域が連携し、子どもに農業・農村の体験学習を実施していたが、継続的に取組ができるよう、平成25年度からは、地域住民が学校運営に参画するオリジナルコミュニティ・スクール「SOCS※ おまめさんかなあプロジェクト」として地元小学校と連携して取り組むこととなった。

（※SOCS: Seiwa Original Community Schoolの略）

- 一方、小学校周辺に遊休農地があり、獣害や火災発生のおそれがあった。



小学校の側にあった遊休農地

## 取組内容

- 小学校周辺の遊休農地を解消し、体験学習の場として整備。
- 小学校と図書館、協議会、ボランティアからなる構成員（SOCSスタッフ）が話し合っ「SOCSおまめさんかなあプロジェクト」の総合学習プログラム（平成28年度は52時間）を作成。
- 地域の歴史的かんがい用水である立梅用水を題材とした郷土史学習や、大豆等の栽培から収穫、加工、伝統食づくりまでの体験学習を本プロジェクトとして実施。



水土里サポート隊の協力の下、遊休農地を解消



立梅用水を題材とした学習「水の道調べ」

## 取組の効果

- 本プロジェクトによって、子どもの農業や郷土への関心、地域社会とのつながりが深まっている。また、本組織の構成員である土地改良区や小学校、図書館等が連携することで、地域の多様な人々の活躍の場の提供にも貢献。
- 本プロジェクトを通じて、遊休農地の発生を抑制するとともに、獣害等の発生も防止している。

〔・本プロジェクトに参加するボランティアは46人中37人が女性（平成28年度）  
・年間参加児童数は延べ2375人（平成28年度）〕

〔・遊休農地解消面積：35a〕



大豆畑の草取り



大豆を使った豆腐やきな粉、みそ作り